

津駅周辺道路空間検討委員会 (第1回) 議事要旨

1. 日 時 令和3年7月12日(月) 10:30~

2. 場 所 アスト津 5階ギャラリー1

3. 委 員 別紙のとおり

4. 議 事

1) 事例の紹介

1) - 1 多様なニーズに応える道路空間

1) - 2 バスタ四日市

2) 津駅周辺空間の基本的な方向性

3) 津駅周辺道路空間 社会実験実施概要

4) その他

5. 委員からの意見

1) 事例の紹介

1) - 1 多様なニーズに応える道路空間

- ・道路断面図では車道側に賑わいを目的とした空間が示されているが、制度上、歩道内での位置に特例区域を設けるかなど、柔軟な対応が可能なのか。(三重県県土整備部 部長)
- ・最低限、歩行者が通行するスペースを確保することを前提に、歩道中での設置位置について決まりはないため、店舗側(民地側)に設けることも可能である。(国土交通省 道路局 環境安全・防災課)
- ・海外では民地側での設置事例が、日本では車道側への設置事例が多いと感じている。それぞれの空間の使い方によるメリットやデメリット等を含め、今後ご指導いただきたい。(三重県県土整備部 部長)
- ・「ほこみち(歩行者利便増進道路)制度」の駅前広場への適用は可能なのか。(三重短期大学生活科学科 教授)
- ・道路法上の道路に関する制度のため、駅前空間において対象となる道路が道路法上の道路であるか否かがポイントである。(国土交通省 道路局 環境安全・防災課)
- ・津駅においては、駅へのアクセス道路として県道(停車場線)があり、駅前広場は津市とJRにて分担して管理している状況である。今後、どのような役割分担で管理をしていくべきかなど、当検討会中での議論を含め、関係者間で調整していければと考えている。(三重県県土整備部 部長)

1) - 2 バスタ四日市

- ・津駅周辺では、核となるような賑わいを創出できるようなものがない。そのため、都市計画が重要になるのではないかと考えている。今後、都市計画についての見直しを含めて検討いただけるものか。(三重県トラック協会 専務理事)
- ・民間の方の力を借りてまちづくりを進めていきたいと考えており、今後皆様との議論を重ねてまいりたい。必要であれば都市計画法上の規制の変更も検討していく。(津市都市計画部 部長)
- ・コンセッション制度の活用について、バスターミナルを運営する企業は、バス事業者等から利用料を徴収すればよいと捉えられるのではないかと懸念している。生活交通・社会インフラとしての路線バスからも利用料を徴収することについては疑問であり、維持管理が困難になると想定される。そのため、慎重に協議をさせていただきたい。(三重県バス協会 専務理事)

- ・コンセッション制度については、収益が見込める場合など、制度の適用によりターミナルの発展が期待できる箇所での活用を前提としている。そのため、事業者側に負担が生じる場合は適用する必要はない。津駅においても、必ずしもコンセッション制度を適用する必要はないと考えている。本検討会を通じて、地域にとって、より良いターミナルの運営・管理方法を模索していきたい。（三重県県土整備部 部長）
- ・バスターミナルの整備によって新たな回遊が生まれるのか、あるいはバスターミナルが都市整備の要の一つとなり、回遊が促されるのか。どのような見解か。また、回遊を新たに促す施策は含まれているのか。（近畿大学工業高等専門学校総合システム工学科 教授）
- ・四日市市のまちづくり基本計画にバスタが含まれており、目抜き通りにおける人の流動が少なく、駅の北側に人が集まっていることは市も認識している。バスターミナルとして、まちづくりに力添えできるよう、全体を見据えながら検討を行っている。また、バスターミナルの位置付けとなる「おもてなしの空間のゲートウェイ」といった観点も踏まえ、まちづくりと連携し、整備を進めていきたい。（三重河川国道事務所 計画課）
- ・計画図には、四日市駅周辺は緑が多く使われていることから、並木空間やさらに東側の生活ガーデンエリアでの人の流動が増えることが期待されており、バスを利用せずとも休日などに人が集まってくる姿を目指しているのではないかと感じている。まちなかに人が集まり、周囲の商店街への人の流動も増加していけばよいと感じている。（三重短期大学生活科学科 教授）

2) 津駅周辺空間の基本的な方向性

- ・津駅周辺空間の主な課題に、観光・送迎バスの乗降を停車場線で実施していることを追加いただきたい。新型コロナウイルスの影響で観光バスの乗降はほとんどないものの、企業や市の施設関係の送迎等で、停車場線に路上駐車し乗降を行っている。（三重県バス協会 乗合実務委員会委員長）
- ・「路線バス、高速バスの停車場が点在」と記載があるが、停車場線上の路線バス停留所（栄町3丁目）は、本来、国道23号線上に設置すべき停留所であると認識している（おそらく国道23号における安全上の課題で停車場線側に設置）。そのため、路線バスの停留所は点在していると認識していない。（三重県バス協会 乗合実務委員会委員長）
- ・今年度、停車場線上での乗降状況について調査を予定している。現況を調査し、課題に追加させていただく。（三重県県土整備部 道路企画課）
- ・津駅東口のタクシー乗り場の待機車両については、津市とJRの土地を借用し待機している。既得権が各社にあり、待機可能な車両数を7社で割り当てている。検討を進めるにあたり、待機車両の割振りを協会ですとまとめるのは困難であり、事業進捗の観点からも、市にて一括してまとめていただきたい。なお、削減された待機場所の代替として、独自に待機場所を確保する可能性もあるため、津駅を中心として景観を壊さないよう進めていただきたい。（三重県タクシー協会 津支部長）
- ・十分な待機場所がない場合、独自で待機場所を確保していることは認識している。今後の検討にあたり、景観という観点は非常に重要であるため、そのような観点も念頭に置き、JRとも併せて協議を進めていきたい。（津市都市計画部 部長）
- ・資料最後の「周辺地域との連携」に、新町周辺などとの連携とあるが、津市にとっては、大門・丸之内地区との連携や役割分担を検討する必要があるのではないかと感じている。（三重短期大学生活科学科 教授）

3) 津駅周辺道路空間 社会実験実施概要

- ・社会実験では、道路空間の利活用のアイデアも募集するとあるが、今回は車線数を減らすのみの社会実験であるため、アイデアや意見が集まるのか疑問である。（三重県トラック協会 専務理事）
- ・今回の社会実験の目的は、主に交通関係の検証を行うことであり、交通中心のご意見をいただき、加えて空間活用のアイデアをいただきたいと考えている。次のステップとして、賑

わい空間としての活用も踏まえた第2段の社会実験を今後検討していきたいと考えている。（三重県県土整備部 部長）

- ・「津駅周辺空間」の東西方向のエリアは資料にて概ね把握できるが、南北のエリアはどこまでを対象とするのか。（近畿大学工業高等専門学校総合システム工学科 教授）
- ・南北方向のエリアについて明確なものは定めていないが、道路空間の影響する範囲、あるいは、回遊性の向上を検討する場合に議論の対象となる範囲を想定している。（三重県県土整備部 道路企画課）
- ・社会実験にてアンケート調査を実施されるようだが、どのように広報・アナウンスを実施するのか確認したい。（近畿大学工業高等専門学校総合システム工学科 教授）
- ・県のホームページへの掲載に加え、津市に協力いただき、公的施設に広報資料を配布させていただいた。また、社会実験の現地の歩道看板にQRコード・URLを示し、回答いただけるようにしている。（三重県県土整備部 道路企画課）
- ・回答が集まりにくいのではないかと想定されるため、さらにアナウンスを行うか、別途、調査依頼をかける必要があるのではないかと。また、今後、社会実験を実施する場合は、PRを強化した方がよいと考える。（近畿大学工業高等専門学校総合システム工学科 教授）
- ・今回の社会実験の実施にあたり、三重短期大学で広報資料の配布を行っている。大学を通し、学生に配布できれば、社会人や年齢の若い方も在籍しているので、そのような方法をとったほうがよかったかもしれない。（三重短期大学生生活科学科 教授）
- ・停車場線は人通りが少ないので、回答が集まらないのではないかと懸念している。津駅前の観光案内所への広報や、近隣の店舗に協力を仰ぐことも可能である。効果的に意見収集ができるよう協力させていただく。（津市観光協会 事務局次長）

4) その他

- ・次回の検討委員会は11月頃を開催目標として考えている。（三重河川国道事務所 計画課）
- ・地方都市の駅前拠点のあり方、交通だけでなく日常の賑わい空間、憩いの場など、人が集まる空間を検討していきたい。そこで、現在の駅前広場が整備後、約50年経過していることを考えると、今回の構想も50年先の将来にも耐えられるような計画をつくりたいと考えている。そのような将来を考慮し検討を行った結果、現在の道路・駅周辺の空間では狭いとなった場合、対象エリアを拡大し検討を行っても問題はないか。（三重短期大学生生活科学科 教授）
- ・誰が事業主体となって、どのような役割分担にて事業を進めていくかが、非常に重要である。今後、新たな施設・拠点等を整備する方向で検討が進む可能性も想定している。その場合は、国・県・市がどのような役割分担で何を担っていくかの議論・調整が重要であると考えている。（国土交通省 道路局 環境安全・防災課）

以 上

第1回 津駅周辺道路空間検討委員会 出席者名簿

令和3年7月12日（月） 10:30～
アスト津 5階 ギャラリー1

区分	所属	氏名	出欠
1 委員長	三重短期大学生生活科学科 教授	オノデラ カズシゲ 小野寺 一成	出席
2	有識者 近畿大学工業高等専門学校総合システム工学科 教授	ナカヒラ ヤスユキ 中平 恭之	出席
3	三重県トラック協会 専務理事	カワカタ ヒロシ 川方 尚	出席
4	交通関係者 三重県バス協会 専務理事	アオキ シュウジ 青木 周二	代理 乗合実務委員会委員長 (三重交通株/バス営業部長) 高田 和昭
5	三重県タクシー協会 津支部長	ムラタ トモカズ 村田 友和	出席
6 委員	経済関係者 津商工会議所 女性会 会長	マツダ ヒロコ 松田 弘子	出席
7	津市観光協会 専務理事	オクノ コウジ 奥野 幸司	代理 事務局次長 川村 暁洋
8	行政関係者 国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所 所長	スガ リョウイチ 菅 良一	出席
9	三重県県土整備部 部長	ミズノ コウジ 水野 宏治	出席
10	津市都市計画部 部長	ワタナベ コウリョウ 渡邊 公隆	出席

事務局	国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所 計画課
	三重県県土整備部 道路企画課
	津市都市計画部 都市政策課